

fidataHFAS1-S10 の活用(38) (HP 収載)

—DAC との LAN 接続(9)—

1. はじめに

前報(36)に引き続き、DAC との LAN 接続について見直していきます。

2. Sonica DAC との LAN 接続の試聴計画

前報(36)までに fidataHFAS1-S10 から OPT ISO BOX 経由で Sonica DAC への接続を実施してきました。前報(35)では、fidataHFAS1-S10 は経由しませんが、Sonica DAC の USB ポートに接続した USB SSD からの再生も実施しています。今回は、このような再生ルートに拡大してみます。

USB SSD

SAMSON T-3→Sonica DAC

SD メモリー

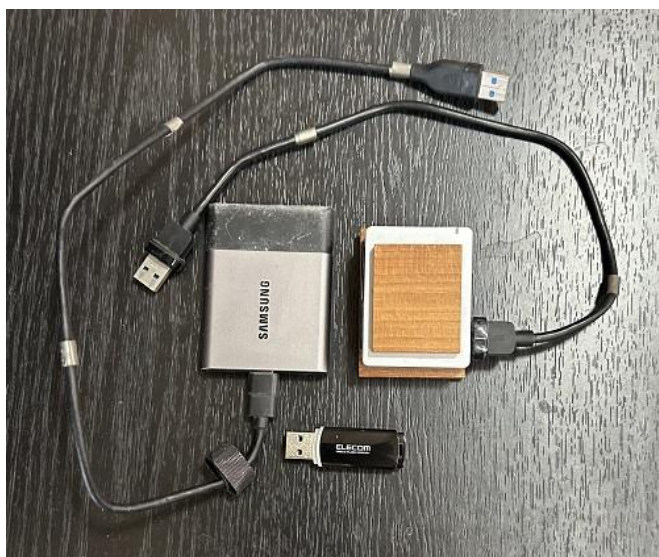
TOSHIBA SD メモリー→SD カードリーダー→Sonica DAC

USB メモリー

USB メモリー→Sonica DAC

外付け HDD

BAFFALO HD-LSU2→Sonica DAC



左 : T-3

右 : SD メモリーリーダー

下 : USB メモリー



HD-LSU2



USB メモリーのセット

なお、IO データ機器の BD ドライブ BRD-UT16X に CD を入れて USB ポートに接続した場合、Sonica アプリはこのドライブを USB 媒体として認識せず、CD の再生はできませんでした。

操作は、従来どおり iPad にインストールした Sonica アプリを使用し、それぞれの媒体の音源を指定して再生します。

音源は下記を使用します。

USB-SSD 収納音源：

前報(35)で使用した下記です。

ケルンコンサート 2.8MHzDSD

キース・ジャレット (ピアノ)

SD メモリー収納音源：

ベルリンフィルデジタルコンサートホールの演奏から 5.6MHzDSD で録音し、44.1KHz・16bit にダウンコンバートした下記です

ヘンリク・ヴィエニャフスキ ヴァイオリン協奏曲第 1 番嬰へ短調 op. 14

HIMARI (ヴァイオリン)

セバスティアン・ヴァイグレ指揮ベルリンフィル

ジョン・コリリアーノ 《レッド・バイオリン・カプリス》より抜粋

HIMARI (ヴァイオリン)

USB メモリー：

CD からのリッピング WAV 音源です。

モーツァルト ヴァリエーション&ソナタ

稲岡千架 (ピアノ)

外付け HDD 収納音源：

2014 年に種々の元音源から TASCAM DA-3000 に録音した下記音源です。

レイ・チェン	バッハ:シャコンヌ	192KHz	24bit	BS
堀米ゆず子	バッハ:シャコンヌ	192KHz	24bit	BS

ヴィクトリア・ムローヴァ	バッハ:シャコンヌ	192KHz	24bit	DVD
ヨゼフ・スーク	バッハ:シャコンヌ	192KHz	24bit	CD
ヒラリー・ハーン	バッハ:シャコンヌ	192KHz	24bit	CD

3. Sonica DAC との LAN 接続の試聴結果

USB-SSD 収納音源の再生は、前報(35)の再確認で、ジャレットのピアノが豊かな残響を伴って新鮮な響きです。

SD メモリー収納音源の再生は、初めての試みです。

ベルリンフィルデジタルコンサートホールの HIMARI 演奏から 5.6MHzDSD で録音し、44.1KHz・16bit にダウンコンバートした音源ですが、HIMARI のストラディヴァリウス「ハンマ」が繊細な表現を聴かせてくれます。

USB メモリー収納音源の再生は、このメモリーとしては初めての使用です。

稲岡千架のベツヒシュタインで弾くモーツアルトのソナタが心地よく響きます。

外付け HDD 収納音源の再生は、最近では実施していませんが、以前は PC 経由で再生していました。以前の音源が多数保存されていますので、この経路で再生を試みました。再生音源は、由来の異なる元音源から 192KHz、24bit の PCM フォーマットで DA-3000 により 10 年以上前に録音したもので、元音源の特徴が録音音源にも継承しているかをみたものです。しばらく使用していなかったものですが、無事再生できました。

レイ・チェンと堀米ゆず子は、ともに BS 放送からの録音でガルネリを使用しており、2014 年の録音とは思えないほど、ガルネリらしさが伝わってきます。

ムローヴァは残響の長い教会でもライブ収録の DVD からの録音、スークは古い CD からの録音で、いずれもストラディヴァリウスでの演奏であり、上記のガルネリとは違った音色です。

ヒラリー・ハーンは比較的新しい CD からの録音で、ヴィヨームでの演奏であり、ゆったり目の演奏で新鮮な音色です。

このようにならかなり以前の録音でしたが、それぞれの演奏の特徴は十分把握できました。

以上、これまでの印象に比べ、どの再生経路も満足できる音質になっています。

Sonica DAC への仮想アースの接続効果もありますが、Sonica DAC に USB 接続した USB 媒体からの再生ですので、信号ラインに光アイソレーションの OPT ISO BOX は介在していませんが、前ステージからの LAN を通じて乗ってくるノイズを遮断している効果が出ているのかもしれませんが。

これらの USB 媒体は、Sonica DAC 全面の USB ポートに接続して、Sonica DAC 経由で再生できますので、USB-SSD、USB メモリー、SD メモリーは使いやすさを活かした機動性のある活用が可能ですし、外付け HDD は音源保管用に加えて要時、再

生する活用が可能です。

なお、5.6MHzDSD の音源も再生を試みましたが、以前の USB-SSD からの再生と同様、再生できませんでした。そこでベルリンフィルデジタルコンサートホールのヘンデルのハープ協奏曲の 5.6MHzDSD から TEAC Hi-Res Editor によりダウンコンバートした PCM 音源を上記の USB メモリーに収納して再生してみたところ、96KHz から 192KHz までは再生できましたが、352KHz と 384KHz は再生できませんでした。

4. まとめ

Sonica DAC の USB ポートに接続した USB 媒体からの再生が実施できました。USB 媒体それぞれの特性に合わせた活用を行います。DSD 音源は 192KHzPCM にダウンコンバートして再生することができました。

以上